

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和4年度 第3回相模原市総合計画審議会		
事務局 (担当課)		政策課 電話042-769-8203 (直通)		
開催日時		令和4年10月31日(月) 13時30分～15時30分		
開催場所		相模原市役所会議室棟1階 第2会議室		
出席者	委員	8人(別紙のとおり)		
	その他	0人(別紙のとおり)		
	事務局	9人(政策課長、外8人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		(1) 総合計画進行管理2次評価(個別施策の審議) (2) その他		

## 議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり

三橋政策課長の進行により議事に入った。

### (1) 総合計画進行管理2次評価(個別施策の審議)

(会長) 私がオンラインで出席していることから、本日は長野副会長に施策毎の審議の質疑応答を取り仕切っていただきたい。

#### ○ 施策14 災害対策の推進

(事務局より施策14に対する委員からの意見の集約内容を説明)

(副会長) 事務局の説明を踏まえて、記述の修正や追加の意見等あれば頂きたい。

(副会長) 斎藤委員の意見は、指標を変えた方がいいという趣旨か。

(斎藤委員) そのような趣旨ではなく、指標3については、素朴に100%でないことが不思議で今回意見させていただいた。

(副会長) 改善提案として、①対象者やツールなど、なぜうまくいっていないのかを知りたい。②どう改善するかを考えたい、の2点ということでしょうか。

(副会長) 横田委員の「取組結果の分析に関する意見」は、趣旨からすると「事務事業に関する意見」ではないか。

(横田委員) 指標の検証の仕方という意味で、特定の指標をさしてという意味ではない、事務事業に関する意見としてもいいかもしれない。

(副会長) 分析の方法を改良すべきという意味か。

(横田委員) 指標だけだと見落としがちな部分について、実質的な検証が必要ではないか。アウトプットのみでなく、質的な検証をしていただきたいと考えている。

(宮津委員) 令和5年度の間目標値が実績値を下回っているのはなぜか。

(事務局) 令和5年の中間目標値は計画策定当初に設定したもの。目標値を下げているということでは無く、令和3年度で既に超えているという認識である。

(副会長) 意見をまとめると、成果への量の分析と一緒に質の分析もする必要がある。緊急情報を届けるということになっているが、なぜ情報を受け取らない人がいるのか分析する、ということによいか。

○ 施策28 観光交流都市の形成

(事務局より施策28に対する委員からの意見の集約内容を説明)

(副会長) 須田委員の意見は、観光資源の分類ができていないという意味によいか。

(須田委員) 市が現在把握している観光にいいところを紹介していくのと、今後、市の観光資源を生み出すことを分けて考えるべきではないかと感じた。

例えば、JAXAはあるが、銀河連邦などでの取組の充実など、少し先の取組を探っていったらどうかと思った。魅力が今あるのか、これから作っていくのか分けて考えた方がいい。

(副会長) 村田委員もそのような意見をしていたと思うが趣旨を確認したい。

(村田委員) 観光都市として魅力がないというわけではないが、集中するべきところに集中すべきと考えている。

(横田委員) 観光自体の概念が変わっているのではないか。今後の対応は捉え方を踏まえて、対象の整理をしていけたらいいのではないか。

(副会長) 今後の見直しタイミングでは、コンセプトが変わっていることを前提に見直す必要があるという指摘によいか。

(横田委員) 今までもマイクロツーリズムをやっていなかったわけではないと思うが、コロナ禍を契機に人々の行動形態が変わり、ニーズが大きくシフトしている。インバウンドの再開もそうだが、ニーズの変化をどれだけ捉えられているかが、より、重要だと考える。

(齋藤委員) キャンプで片道一時間であれば泊まって帰りたいという意見もあるので

はないか。ニーズやどのようなハードルがあるかは検討の余地があると思う。

(副会長) ここまでの議論をまとめると、ニーズと相模原の資源のマッチングが重要であり、コロナ禍で仕方ないというわけではなく、観光の考え方が変わってきている中で、どのようなステップで資源を再設計するのかが、大事な点であると考えられる、ということでしょうか。

(宮津委員) マイクロツーリズムとあるが、立川などの近隣自治体等、甲州街道の自治体と連携してできないのか。例えば「キャンプ場」という点だけではなく、エリアとして、周遊的な展開で売り込みしていくことが期待できるのではないかと。市だけではなく、近隣自治体も巻き込んでいくことが必要ではないかと考えている。

○ 施策3-1 スポーツの推進とスポーツを通じた活力あふれるまちづくりの実現  
(事務局より施策3-1に対する委員からの意見の集約内容を説明)

(村田委員) 成果指標2と3について。ホームタウンチームのPRが足りていない気がする。いつ試合をやっているのか、わからない。様々なイベントを行っているとは思いますが、広報を見てもわからない。意外と抜け漏れが多いので、情報に関するアクセスを多方面からできるようにしたほうがいいと考えた。ボランティアも「そういえば募集していたな」という程度の記憶はあるが、印象が薄い。

興味がある人が情報にアクセスしやすい環境を充実させることが大事だと考える。

(副会長) 市の単独の努力の問題ということだけではなく、相手方とのコラボレーションがうまくいっていないと整理できる、ということでしょうか。

(村田委員) 今後スポーツイベントが増えていくだろうから、今のうちから、情報にアクセスできる環境、基盤のような仕組みを作っていく必要があると考える。

(副会長) 横田委員の最後の意見は、大規模イベント主体ではいけないという意味でしょうか。

(横田委員) 成果指標は、すそ野がどれだけ広がっているかを重視した指標になっていると感じている。コロナの感染状況も注視しながらということで、ボリュームだけではなくリピート性や新しい観点で見直ししてもいいのではないかと。

(副会長) この施策だけでの考え方ではないというか。この施策に関して言えば、大規模イベントが高齢者や幼児が参加しやすいものとは必ずしもいえない。ボリュームゾーンを追求する方法だけの視点でいいのか。というご意見でよいか。

また、施策28で施策31と連携したらという意見があったということも含めて事務局で整理しておいてほしい。

#### ○ 施策33 温室効果ガスの削減と気候変動への適応

(事務局より施策33に対する委員からの意見の集約内容を説明)

(須田委員) 市域の温室効果ガスについて、排出量のインベントリ調査を行っている聞いた。調査しているのであれば、他の委員からの指摘にある「取組の対象に応じた違いを整理されているか」という点は、対応できていると思う。例えば中小企業向けの施策展開も出来るのではないか。

(副会長) 複数の委員から、教育へのアプローチが提起されている。斎藤委員からするとどのような教育へのアプローチがされているのか見えなかったということか。

(斎藤委員) そのようなアプローチが見受けられなかったので意見させていただいている。

(横田委員) 気候非常事態宣言という先進的な取組を進めているなかで、数字が上向きにならないといけないのではないか。市民セクターは教育的なものが強いので、おそらく、シナリオがあって進めているとは思いますが、どのように進んでいるのかが大事である。また、適応策に対する成果指標はあるが、市民が自発的にどうしているのか把握する必要がある。

(副会長) まとめると、教育のアプローチがわからない、もしくは足りないのではということであった。

#### ○ 重点テーマ2

(事務局より重点テーマ2に対する委員からの意見の集約内容を説明)

(村田委員) 立地特性として都心にアクセスがしやすく、現在はテレワークという働き方がある中で、必ずしも何もなくても人は戻ってくるのではないか。

(副会長) 当初と制度設計が変わっている可能性もある。若者の転入転出はどうなっ

ているのか。

(事務局) 昨年度で言えば、転入超過数は全国10位ということであった。住宅購入世代の増加が特に顕著である。

(会長) 総合計画の「現状と課題」では、「大学進学期に当たる」としている。書き方のイメージとしては、受験生をイメージしてしまうのでは。事務局に提案したい。

(横田委員) 指標2はもう少し上がってもいいのではないか。複合的な取組の成果で上昇していると分析されているが、逆になぜこれだけやっても上がらないのか疑問である

(宮津委員) ブランチ(本社機能がない)都市であり、本市の雇用は少ない。せっかく学生がきてもいなくなってしまう。地域特性が何なのかということがいまいち見えてこない。基本方針はこうなるかと思うが、もう少し文章を具体化しないといけないのではないか。雇用促進は広く、ライフスタイルの変化を確実に捉え進められるような基本方針を考えてもらいたい。

(副会長) 計画策定の時点では転出超過ではあるが、今回の点検時点では転入者が多いという点での議論は必要である。

(齋藤委員) 知人が調べた結果であるが、女性がテレワークをやっている人が思ったより少なかった。女性が所属している会社が大企業ではないことなどが影響しているのではないか。また、相模原市は都内や横浜と比べ時給が低い。少しでも高い給料を求めて他市に流れているのでは。ざっくりとした指標だと細かいところは出てこない。ますます個別の事業を組み立てるのは難しいと思う。

### ○ 重点テーマ3

(事務局より重点テーマ3に対する委員からの意見の集約内容を説明)

(副会長) 村田委員から、「地域のことが地域でできている」の上昇について意見があった。急激過ぎるともいえる変化があったのは、何等か、特殊な要素が作用しているのではないかという意味か。病院とか交通が急速に良くなることは考えられないので。

(宮津委員) 中山間地域というのは、津久井地域と同じ枠組みなのか。

(事務局) 中山間地域としては、旧津久井町、旧相模湖町、旧藤野町を捉えている。一部、旧城山町でも類似の環境があるが、主に旧3町を中心に検討を進めている。

(宮津委員) 合併から10年以上たつが、旧町の枠組みの中で、それぞれ組織が残っており、横断的な行政が進んでいるとは言えないのではないか。中山間地域対策としては、この見方を変えていかなければいけない。例えば、城山地区と相模湖地区を同じ視点で考えるのは難しいのではないか。城山地域は橋本駅周辺のまちづくりの影響などもあり、人口減少の進行等も他の旧町の地域とは異なっていくと思われる。このままいくと、成果として正しい数値がでてこないのではないか。思い切って、考えだけでも変えていく必要があるのではないか。

(副会長) 合併前の旧4町をの1つの単位で捉えることに課題があるという指摘であった。

(齋藤委員) 北海道の他自治体で、1棟の新設宿泊施設のためだけに下水道を引くことになり、自治体の予算の相当の割合を割いているというのを見た。中山間地域対策事業の費用対効果が気になる。人口減少が進む中、将来的なことを考えると、他の市から人を奪ってくるだけで良いのかな、という気がした。

(副会長) 道や医療が大きく変わることがないのに、大きな変動があるということは、なにかあるのでは。村田委員からの指摘の通り、オンラインショッピングなど当初想定していない要因で高くなっている可能性がある。指標の捉え方と変化の理由をしっかりと分析する必要がある。

(会長) 印象になるが、合併以降、市は旧四町に力を入れている。職員の配置を見ても、行政サービスの残し方など、考慮している。サービス向上したと答えた人が7割くらいいる感覚。その点で行くと、津久井住民がこういった評価をしていいと思っている。

客観的に言えるかどうかはわからないが、令和3年度の実績値が上がっていることにしても同じことが言える。数値が上がっていることは評価しつつ、問題点は指摘するという形にしないと、データを作った時の審議会が、精査が甘かった、いけなかったということになる。指標の評価はし、見直すべきところは見直す、新型コロナウイルス感染症などで数値を見直したほうが良いという、流れにならなければならない。

(副会長) 指標1の目標水準は達しているが、指標2は微減となっている。まずはこの評価をするということによいか。

(宮津委員) 指標2は状況も市民の考え方も変わってきている。3町と1町では意識が違うはず。令和9年の結果をそのままの評価基準で審査してしまっていていいか気になる。データのとり方は変えてほしい。

(副会長) このテーマの意見のまとめとして。指標1は大きく上回っている。指標2は満たしていない。そのうえで、行政は何ができるか考えてほしい。また、いろいろな議論がある中で、町単位で数値を捕捉すべきではないか。

(会長) 旧町ごとの数字は興味深い。行政サービスや課題解決がよくなったというのは、市のサービスが取り入れられたということ、一方で、町役場でやっていたことを、まちづくりセンターなどで対応することになり、さらに、人口減少や高齢化が進み、地域の中で解決できなくなっている。活性化や都市内分権などの取組を強化するということが必要なのでは。課題の中で入れてもいいと考える。

(副会長) 地域内分権の促進や、市域としてのサービスの充実などを検討することが必要と考えるとまとめられようか。

## ○ 全体評価

(会長) 事例の横展開という言葉がわかりづらい

(事務局) 好事例があれば参考としながらという意味で示させていただいた。修正したい。

(会長) 事務局や副会長とも相談したいが、策定時の成果指標についての意見である。成果指標を現時点で達成されているから、さらに高い目標に…、ということではない。当時の設定が間違えていたとは言えない。よって、「言い難い…」「成果指標を見直すことを検討する」までは審議会で言いすぎではないか。審議会としては、数値設定を見直すことを検討する必要があるのでは、という程度にトーンを落とすべきと考える。

## (2) その他

今後のスケジュール等について、事務局から説明を行った。



(牛山会長) 本日の議事は終了とする。

以 上

## 相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	牛山 久仁彦	明治大学政治経済学部教授 地域行政学科長	会長	出
2	長野 基	東京都立大学都市環境学部都市政策科学科准教授	副会長	出
3	朝山 あつこ	認定 NPO 法人キーパーソン 21 代表理事		出
4	出雲 明子	明治大学専門職大学院ガバナンス研究科教授		欠
5	隅河内 司	田園調布学園大学人間福祉学部教授		欠
6	横田 樹広	東京都市大学環境学部環境創生学科教授		出
7	齋藤 祐子	公募委員		出
8	須田 理	公募委員		出
9	宮津 敏信	公募委員		出
10	村田 大輔	公募委員		出